

小特集

2 諸外国の子ども遊び 図書紹介 ● 手労研の本だな

于 潤琦 (ウ ジョンキ) 著
『北京 路地裏エンターテイメント』

岩崎 菜子訳 (2008年8月 毎日新聞社刊 税別1600円)

和光学園 森 下 一 期

本書には副題が、「なつかしき胡同（フートン）の娯楽と職人芸」と付いています。胡同とは北京の路地を意味していて、ここでは子どもたちが遊び、行商人や芸人の姿がよく見られたということです。でも、社会主義国家となり、また文化大革命などを経る中で、旧正月の縁日の市でもそれらが見られなくなった、ということです。そういった伝統的な遊び道具や玩具、娯楽が近年復活し始めたとのこと。いろいろな分野で、かつての芸術や芸能が見直されているようですが、その中で生まれた書物です。全部で34種類紹介されていますが、日本と共通したものが多くあります。古写真と絵図を豊富に使い、解説しています。表題を並べ、縮小した絵図などをいくつか紹介します。

「爆竹」／「灯籠祭り」／「ポップン（ガラス製の音を出す玩具）」／「絵凧」／「羽根蹴

り」／「独楽回し」／「金魚売り」／「型抜き遊び」／「水鉄砲」／「コオロギ相撲」／「兎頭人形」／「キリギリスの飼育」／「飴細工」／「氷上そり」／「しん粉細工」／「草細工」／「でんでん太鼓」／「空中独楽」／「宙返り人形」／「めんこ」／「尻当て凧」／「石蹴り」／「鳥の賞翫」／「鳩の飼育と闘い」／「覗きからくり」／「人形芝居」／「高足踊り」／「猿回し」／「ネズミの曲芸」／「京劇面」／「騎馬武者人形」／「豚毛人形」／「造花の花市と絹人形」／「蟬の抜け殻人形」

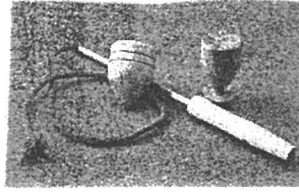
北京オリンピックにあわせて出版されたようですが、競技とあわせて北京の町並の様子をテレビで垣間見ていましたので、訳者の解説「北京の成り立ちと伝統娯楽」が理解を助けてくれました。解説を先に目を通すと、より興味を惹かれるのではないかと思います。



絵凧



絵凧



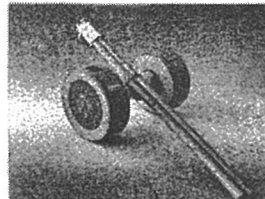
独楽



空中独楽の音



空に向かって空中独楽を振り上げる



空中独楽はこまの種と細線で作る。写真：朝日新聞